関係性について

as to relatiionship

小田部黄太
Kohta Kotabe
造形芸術学科

金属彫刻の制作を続けて40年近くになるが、当初の数年をのぞけば制作のテーマは（あまり自覚していない時期も含め）「存在」ということになると思う。彫刻というものを考えたとき、その作品は少なくとも物体として存在している。しかしながら、人にとっての「存在」とは、その存在を人が認知することによって存在することになるのであろう。誰ひとり存在を認知していないものは、少なくとも人にとっては存在していないのと同じである。

したがって人にとっての「存在」は、それを人が認知していること、認知しているもの、それが「存在」であるということができる。そう考えてくると、人が認知している「存在」と物理的な「存在」との間になにがしかの「ズレ」の様なものが有るように感じている。その「ズレ」を作品の中に意図的に生じさせることについて考え、ここ数年は制作を行っている。そういったことの「関係性」から人という「存在」について垣間見ることができれば面白いのであるが……。

1000×900×800mm　鉄、真鍮　2022年制作　第29回アジア美術家連盟日本委員会展　2022年12月